

ノ爲メ不動産ニ付テノ書入質ノ權ヲ其役所ノ簿冊ニ記入スルコトナキ時ハ婦ノ嫁資ヲ還與シ及ヒ婚姻ノ契約ノ如ク執行フコト又ハ後見人ノ支配ノ事ニ付テノ書入質ノ權ヲ濫除シテ其不動産所有ノ權ヲ全ク其買主ニ移ス可シ但シ婦、幼者、治産ノ禁ヲ受ケシ者ヨリ夫又ハ後見人ニ對シ訴テ爲メ可キノ理アル時ハ之ヲ爲メテ得可シ

二月ノ時間ニ婦、幼者、治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ爲メ書入質ノ權ノ記入ヲ爲シタルト雖モ此等ノ書入質ノ權ヲ生シタル以前ニ義務ヲ得可キノ權ヲ得タル者アリテ其夫又ハ後見人ノ不動産ノ價ノ全部又ハ一部ヲ得可キ時ハ其不動産ノ買主其價ノ全部又ハ一部ヲ其義務ヲ得可キ者ニ拂フタルニ因リ其不動産ノ全部又ハ一部ニ付テノ書入質ノ權ノ濫除ヲ得テ婦、幼者、治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ爲メ爲シタル書入質ノ權ノ記入ヲ全ク塗抹シ又ハ其一部ヲ塗抹ス可シ

又婦、幼者、治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ爲メ其書入質ノ權ノ記入ヲ爲シテ其權ヲ生シタル順序他ノ義務ヲ得可キ者ノ權ヲ生シタルニ先テタル時ハ其夫又ハ後見人ノ不動産ノ買主ヨリ其價高キ他ノ義務ヲ得可キ者ニ拂フテ其婦、幼者、治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ爲メ爲シタル書入質ノ權ノ濫除ヲ爲メ可カラス但シ其書入質ノ權ノ記入ハ前條ニ記シタル如ク婚姻ノ契約ヲ結ビタル日又ハ後見人ノ職務ヲ行ヒ始メタル日ニ之ヲ爲シタルニ等シク看做ス可シ○此場合ニ於テハ他ノ義務ヲ得可キ者ノ書入質ノ記入中ニテ其義務ノ價ヲ得可キ順序外ノモノハ之ヲ塗抹ス可シ

○第十章 書入質役所ノ簿冊ヲ公ニスル事及ヒ書入質管轄者ノ擔當ス可キ條件

第二百九十六條 書入質ノ管轄者ハ其簿冊ニ登記シタル證書ノ寫又ハ其簿冊ニ記入シタル債主ノ特權又ハ書入質ノ權ノ記入ノ寫又ハ其記入ナキノ請合書ヲ得ント求ムル者アル時ハ此等ノ證書ヲ渡ス可シ

第二百九十七條 書入質ノ管轄者ハ左ノ二件ニ因リ生シタル損失ノ價ヲ擔當ス可シ

第一 其簿冊ニ不動産所有ノ權ヲ移ス證書ヲ登記ス可キノ求メテ受ケ又ハ書入質ノ權及ヒ債主ノ特權ノ記入ヲ爲ス可キノ求メテ受ケテ之ヲ怠リタル時

第二 其管轄者現ニ記入シタル一箇又ハ數箇ノ債主ノ特權又ハ書入質ノ權アルコトヲ忘レ此等

ノ權ナキノ請合書ヲ渡シタル時

但シ管轄者記入ヲ求メシ者ノ述フル所不十分ナルニ因リ管轄者ニ過失ヲ歸ス可カラサル時ハ格別ナリトス

第二百九十八條 書入質ノ管轄者不動産ニ付テノ一箇又ハ數箇ノ債主ノ特權及ヒ書入質ノ權アルコトヲ忘レ此等ノ權ナキノ請合書ヲ渡シタル時其不動産所有ノ權ヲ得タル者其所有ヲ得タル證書ノ登記ヲ得タル後ニ其管轄者ヨリ全上ノ請合書ヲ得タルニ於テハ其不動産ニ付テノ債主ノ特權及ヒ書入質ノ權ヲ濫除シテ之ヲ所有スルコトヲ得其管轄者其過失ノ責ニ任ス可シ但シ其不動産ヲ得タル者未ダ其價高キ拂ハサル時間又ハ義務ヲ得可キ數人其間ニ定メタル順序ニ附キ裁判所ノ允許ヲ得サル時間ハ其義務ヲ得可キ數人相當ノ順序ヲ以テ其不動産ノ價高ヲ受取ルコトヲ得可シ

第二百九十九條 書入質ノ管轄者ハ不動産所有ノ權ヲ移ス證書ヲ登記スルコト、書入質ノ權ヲ記入スルコト、書入質ノ權ノ記入ノアラサル請合書ヲ渡スコトヲ拒ミ又ハ遅延ス可カラス若シ之ヲ拒ミ又ハ遅延スル時ハ其損失ヲ受ケタル者ニ償フ爲メ可シ但シ其損失ヲ受ケタル者其償ヲ得ントスルニハ其旨ヲ願出シ治安裁判所又ハ初告裁判所ノ訟庭掛リノ使吏又ハ其他ノ使吏又ハ證人二員ノ立會ヲ得タル證書人直ニ其管轄者ノ答ノ調書ヲ記ス可シ

第二百百條 又書入質ノ管轄者ハ簿冊ヲ設ケ置キ不動産所有ノ權ヲ移ス證書又ハ書入質ノ權及ヒ債主ノ特權ノ記入ヲ得ル爲メノ簡條書ヲ受取リタル事ヲ毎日番號ヲ附シテ其簿冊ニ書留メ且願出テタル者ニ其差出セシ證書又ハ簡條書ヲ受取リタル旨ヲ證スル書付ヲ渡ス可シ但シ其受取書ハ印紙ニ記シ且之ヲ書留メタル簿冊ノ番號ヲ附記ス可シ○其管轄者ハ不動産所有ノ權ヲ移ス證書又ハ書入質ノ權及ヒ債主ノ特權ノ記入ヲ得ル爲メノ簡條書ヲ受取リタル順序ト日附トニ從ヒ此等ノ書類ヲ簿冊ニ此簿冊ハ登記又ハ記ニ登記シ又ハ記入ス可シ

第二百百一條 書入質管轄者ノ簿冊ハ皆印紙ヲ用ヒ且其役所所在ノ地ヲ管轄スル初告裁判所ノ裁判役一人其簿冊ノ初葉ヨリ冊尾ニ至ル迄記號ヲ附シ且姓名ノ手摺ニ代用スル横線ヲ畫ス可シ

○其簿冊ハ總テ證書類ヲ記録スル簿冊ノ如ク毎日之ヲ修整ス可シ
第二千二百二條 書入質ノ管轄者ハ其職務ヲ行フニ付キ此章ニ記スル所ノ規則ヲ遵守ス可シ若シ
此規則ニ背シ時ハ初犯ニ付テハ二百「フランク」ヨリ少カラズ千「フランク」ヨリ多カラサル罰金
ノ言渡ヲ受ケ再犯ニ付テハ其職ヲ退ケタル可シ又其管轄者ノ罪ニ因リ損失ヲ受ケル者アル時ハ
罰金ヨリ先キニ其者ヘノ償ヲ出ス可シ

第二千二百三條 書入質ノ管轄者不動産ニ付テノ證書類ヲ受取リタルトテ其簿冊ニ記シ又ハ債主
ノ特權及ヒ書入質ノ權ヲ其簿冊ニ記入シ又ハ不動産所有ノ權ヲ移シタル契約書ヲ其簿冊ニ登記
スルニハ空行剩白ナク之ヲ爲ス可シ若シ其管轄者此規則ニ背シ時ハ千「フランク」ヨリ少カラズ
二千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ又其罪ニ因リ損失ヲ受ケタル者アル時ハ罰金
ヨリ先キニ其者ヘノ償ヲ出ス可シ

○第十九卷 義務ヲ得可キ者之ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フ事及ヒ義務ヲ得可キ
ノ順序(千八百四四年二月十九日決定同月廿九日布告)

○第一章 義務ヲ得可キ者之ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フ事
第二千二百四條 義務ヲ得可キ者ハ左ノ諸件ヲ抵償トシテ奪フ可キトテ裁判所ニ訴出スルヲ得可
シ

第一 義務ヲ行フ可キ者ノ所有スル不動産及ヒ其不動産ニ附帶シテ不動産ナリト看做ス可キ
物

第二 不動産ニ付キ義務ヲ行フ可キ者ノ有スル入願所得ノ權

第二千二百五條 然レ遺物相續人中ノ一人其相續ス可キ不動産ヲ他ノ相續人ト共通シテ未ダ之ヲ
分テサル時ハ其相續人ノ一身ヨリ義務ヲ得可キ者他ノ相續人ヲシテ其不動産ヲ分派セシメ又ハ
賣賣ト爲サシムルノ手續ヲ爲シタル後ニ非サレハ其不動産ヲ抵償トシテ奪ヒ賣拂フヲ得ス又

相續人等自カラ其分派又ハ賣賣ヲ爲サントスル時ハ其義務ヲ得可キ者第八百八十二條ニ循ヒ之
ニ干渉シテ其分派又ハ賣賣ヲ爲シタル後ニ非サレハ其不動産ヲ抵償トシテ奪ヒ賣拂フヲ得ス
第二千二百六條 既ニ後見ヲ免レタルト否トテ問ハス幼者ヨリ義務ヲ得可キ者又ハ治産ノ禁ヲ受
ケシ者ヨリ義務ヲ得可キ者ハ先ツ其動産ヲ以テ其義務ノ償ヲ得ルニ充テ用ヒ猶其不足ナル上ニ
非サレハ其不動産ヲ抵償トシテ賣拂フヲ得ス

第二千二百七條 丁年者ト幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者ト連帶シテ義務ヲ負フタル時又ハ義務ヲ
得可キ者其丁年者ニ對シテ既ニ其財產ヲ抵償ト爲ス可キ訴ヲ爲シ始メタル時又ハ其義務ヲ得可
キ者治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ未ダ之ヲ受ケサル中ニ其財產ヲ抵償ト爲ス可キ訴ヲ其者ニ對シテ爲
シ始メタル時ハ其丁年者ト幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者ト共通スル不動産ヲ抵償トシテ賣拂フ
前ニ先ツ其動産ヲ以テ義務ノ償ニ充テ用フルヲ必要トセス

第二千二百八條 夫婦ノ共通スル不動産ヲ抵償トシテ奪フハ夫婦共ニ義務ヲ負フタル時ト
雖モ其夫ノミニ對シテ之ヲ訴フ可シ
夫婦ノ共通セサル婦ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フハ夫婦雙方ニ對シテ訴フ可シ但シ婦裁判所ニ
出ルニ付キ夫ノ幼年ナル時又ハ婦ト共ニ其夫ノ裁判所ニ出ルヲ肯セサル時ハ其婦裁判所ヨリ其
允許ヲ受ク可シ

又夫婦共ニ幼年ナル時又ハ婦幼年ニシテ丁年ノ夫其婦ト共ニ裁判所ニ出ルヲ肯セサル時ハ裁
判所ヨリ其婦ノ爲メ特ニ後見人ヲ任シ義務ヲ得可キ者其後見人ニ對シテ不動産ヲ抵償ト爲スノ
訴ヲ爲ス可シ
第二千二百九條 義務ヲ得可キ者ハ書入質トシテ得タル不動産ノ不足ナル時ニ非サレハ書入質ト
爲サ、ル不動産ノ賣拂ヲ訴フルヲ得ス

第二千二百十條 初告裁判所ノ管轄相異ナレバ數箇ノ不動産ヲ抵償トシテ奪ヒ之ヲ賣拂フハ同
時ニ之ヲ訴フ可カラス先ツ其事ヲ一ノ裁判所ニ訴ヘ次ニ他ノ裁判所ニ訴フ可シ
但シ其不動産相連接シテ且其耕作ノ法同一ナル時ハ格別ナリトス

其不動産相連接シテ其耕作ノ法同一ナル時ハ其不動産中首タル家屋ノアル部分ヲ管轄スル裁判所ニ其訴ヲ爲シ又首タル家屋ノアラサル時ハ地稅ノ目錄ニ從ヒ其入額ノ最も多キ部分ヲ管轄スル裁判所ニ其訴ヲ爲ス可シ

第二千二百一十一條 書入質ト爲シタル不動産ト書入質ト爲サ、ル不動産ト同一ノ裁判所管轄内ニ在テ相連接シ且其耕作ノ法同一ナル時又ハ此等ノ不動産相異ナリタル裁判所ノ管轄ニ屬スルト雖モ相連接シテ且其耕作ノ法同一ナル時ハ義務ヲ行フ可キ者ノ求メニ從ヒ此等ノ不動産ヲ同時ニ抵償トシテ賣拂フコトヲ義務ヲ得可キ者ヨリ訴フ可シ但シ此場合ニ於テハ雜賣ヲ爲シタル其全部ノ價中ニテ其各部ノ價ヲ秤ル可シ

第二千二百一十二條 義務ヲ行フ可キ者其不動産ヨリ一年間得ル所ノ實利ノ入額ヲ以テ義務ノ母銀、息銀並ニ其費用ヲ償フニ足ル可キコト其不動産賃貸ノ公正ノ證書ヲ以テ證シ且其一年間ノ入額ヲ義務ヲ得可キ者ニ委遣セントスルコトヲ述フル時ハ裁判役其不動産ヲ抵償トシテ奪フ可キノ訴ヲ止メシムルヲ得可シ但シ其後ニ至リ其入額ヲ以テ義務ヲ得ルニ充テ用フルノ妨ケヲ生シ又ハ故障ヲ述フル者アル時ハ再ヒ其不動産ヲ抵償トシテ奪フ可キノ訴ヲ爲ス可シ

第二千二百一十三條 義務ノ高定リタルモノニシテ且裁判言渡ノ如ク執行フ可キ旨ヲ記シタル公正ノ證書アルニ非サレハ其不動産ヲ抵償トシテ賣拂フコトヲ訴フ可カラス○其義務ノ高定マラレル時ハ其不動産ヲ抵償トシテ賣拂フノ訴ハ其効アリト雖モ其雜賣ハ其高ヲ定メタル後ニ非サレハ爲スコトヲ得ス

第二千二百一十四條 裁判言渡ノ如ク執行フ可キ旨ヲ記シタル證書ヲ讓リ受ケタル者ハ其讓リ受ケル旨ヲ義務ヲ行フ可キ者ニ報告シタル後ニ非サレハ其不動産ヲ抵償トシテ奪フコトヲ訴フ可カラズ

第二千二百一十五條 其訴訟ハ控訴ニ管セズ假リニ執行フ可キ假リノ裁判言渡又ハ確定ノ裁判言渡ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得可シ然レハ不動産ノ雜賣ハ終審ノ確定ノ裁判言渡又ハ控訴スルコトヲ得サル確定ノ裁判言渡ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラズ

又義務ヲ行フ可キ者ノ抗辯シテ爲シタル裁判言渡ノ時ハ其者ノ故障ヲ述フルコトヲ得可キ期限内ニ同上ノ訴訟ヲ爲スコトヲ得ス

第二千二百一十六條 其訴訟ハ義務ヲ得可キ者ノ當然得可キ義務ノ高ヨリ更ニ多キ高ニ付キ之ヲ爲シタルコトヲ口實トシテ取消ス可カラズ

第二千二百一十七條 義務ヲ得可キ者ハ之ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フ可キノ訴訟ヲ爲ス前ニ使更ヲシテ其義務ヲ行フ可キ者又ハ其住所ニ義務ヲ行フコトヲ求ムル要決ノ書ヲ送達セシム可シ

其要決ノ書ヲ記スル法式及ヒ其訴訟ノ法式ハ訴訟法ニ之ヲ定ム
訴訟法第六百七十三條以下見合

○第二十卷 期滿得免ノ權(千八百四年三月十五日決定同月二十五日布告)

○第一章 總規則

第二千二百一十九條 期滿得免ノ權トハ法律上ニテ特ニ定メタル規則ニ循ヒ定期ノ時間ノ經過スルニ因リ物件ノ所有ヲ得又ハ義務ヲ免ル、權ヲ云フ

第二千二百二十條 何人ニ限ラズ預シメ期滿得免ノ權ヲ拋棄スルコトヲ得ス然レハ既ニ得タル期滿得免ノ權ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得可シ

第二千二百二十一條 期滿得免ノ權ヲ拋棄スルコトハ明許又ハ默許ヲ以テ之ヲ爲ス可シ但シ默許ノ拋棄ハ期滿得免ノ權ヲ拋棄シタル可シト思料スルヲ得可キ景狀ニ管スルモノトス

第二千二百二十二條 人コト物ヲ賣リ又ハ與フ可キノ權ナキ者ハ既ニ得タル期滿得免ノ權ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第一千二百二十三條 期滿得免ノ權ヲ得タル者明許又ハ默許ヲ以テ其權ヲ拋棄シタル時ハ裁判役

其職務ヲ以テ其權ヲ復サシムルヲ得ス

第一千二百二十四條 初告裁判所ニ訴出シタルト控訴院ニ訴出シタルト問ハス訴訟ヲ爲ス時間

何レノ時ニ於テモ期滿得免ノ權アルコトヲ申述フルヲ得可シ但シ期滿得免ノ權アルコトヲ述ヘサル者其時ノ模様ニ因リ其權ヲ拋棄シタルト思料ス可キ時ハ格別ナリトス

第一千二百二十五條 義務ヲ行フ可キ者又ハ物件ヲ占有シタル者期滿得免ノ權ヲ拋棄スルト雖モ其者ヨリ義務ヲ得可キ者又ハ其他期滿得免ノ權ヲ得ルコト付キ管係アル者ヨリ其權アルコトヲ申述フルヲ得可シ

〇第二章 物件ヲ占有スル事

第一千二百二十六條 賣買ヲ爲ス可カラサル物件ニ付テハ期滿得免ノ權ヲ得可カラズ

第一千二百二十七條 官府、邑、公舎ハ平民ニ等シク己レ人ノ爲メ期滿得免ノ權ニ罹リ又ハ己レヨリ人ヲシテ之ニ罹ラシムルヲ得可シ

〇第二章 物件ヲ占有スル事

第一千二百二十八條 占有トハ自カラ物件ヲ有シ或ハ權利ヲ行ヒ又ハ名代人ヲシテ物件ヲ有セシメ或ハ權利ヲ行ハシメ其物件又ハ權利ヲ己レニ保ツテ云フ

第一千二百二十九條 期滿得免ノ權ヲ得ルコトハ所有者ノ名義ヲ以テ絶ヘス公ケコ妨ナク物件ヲ占有スルコト必要トス

第一千二百三十條 初メヨリ他人ノ爲メ物件ヲ占有シタルノ證アラサル時ハ自カラ所有者ノ名義ヲ以テ占有シタルト看做ス可シ

第一千二百三十一條 初メヨリ他人ノ爲メ占有シタル時ハ常ニ其名義ヲ以テ占有シタルト看做ス可シ但シ之ニ反シタル證アル時ハ格別ナリトス

第一千二百三十二條 人ヨリ宥忍ヲ得タルノモノヲハ占有ノ權ヲ得可カラズ又期滿得免ノ權ヲ得可カラズ

第一千二百三十三條 暴行ヲ以テ占有シタル時ハ期滿得免ノ權ヲ得可キ占有ニ非ストス

其暴行ヲ止メシ時ヨリ後ニ非サレハ其當然ノ占有ヲ得タルモノトス可カラズ

第一千二百三十四條 現在ノ占有者以前占有シタルノ證ヲ立ル時ハ其間ノ時ニ於テモ亦占有シタルト看做ス可シ但シ之ニ反シタル證アル時ハ格別ナリトス

第一千二百三十五條 人ヨリ財產ヲ得タル者ハ其全部ヲ得ルノ名義又ハ其一部ヲ得ルノ名義又ハ償ヲ出サ、ル名義又ハ償ヲ出ス可キノ名義ニテ之ヲ得タルヲ問ハス期滿得免ノ權ヲ得ルニ付キ其財產ヲ與ヘ又ハ讓リタル者ノ占有ノ期限ヲ自己ノ占有ノ期限ニ加フルヲ得可シ

〇第三章 期滿得免ノ權ヲ得ルコト能ハサル理由

第一千二百三十六條 他人ノ爲メ占有スル者ハ幾許ノ期限ヲ經ルト雖モ期滿得免ノ權ヲ得可カラズ故ニ人ヨリ土地ヲ賃借スル者、人ヨリ物件ノ附託ヲ受ケタル者、入頼ノミヲ所得ト爲ス者及ヒ其他所有ニ非サル名義ヲ以テ人ノ物件ヲ占有スル者ハ期滿得免ノ權ヲ得可カラズ

第一千二百三十七條 又前條ニ記スル如ク所有ニ非サル名義ヲ以テ物件ヲ占有スル者ノ遺物相續人モ亦期滿得免ノ權ヲ得可カラズ

第一千二百三十八條 然レ前二條ニ記シタル者他人ノ所爲ニ因リ又ハ自カラ所有者ノ權ヲ拒ムニ因リ物件ヲ有スル名義ノ更改シタル時ハ期滿得免ノ權ヲ得可シ

第一千二百三十九條 土地ヲ賃借スル者、物件ノ附託ヲ受ケル者及ヒ其他所有ノ名義ニ非スシテ物件ヲ有スル者ヨリ所有ノ權ヲ移ス名義ニテ物件ヲ得タル者ハ期滿得免ノ權ヲ得可シ

第一千二百四十條 何人ニ限ラズ物件ヲ有スルニ付テノ理由ト方法ト自カラ更改スルコトヲ得サルニ付テハ證書ニ記シタル名義ニ反シテ期滿得免ノ權ヲ得可カラズ

第一千二百四十一條 然レ定期ノ時間訴ヲ受ケサル時ハ人其負フタル義務ノ釋放ヲ得可キニ付テハ其義務ノ證書ノ名義ニ反シテ期滿得免ノ權ヲ得可シ

〇第四章 期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄スル理由及ヒ其期限ノ經過ヲ一時停止スル理由

〇第一款 期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄スル理由

第二百四十二條 期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ自然ニ除棄スルコトアリ

又ハ法律上ニテ除棄スルコトアリ

第二百四十三條 物件ノ占有者其所有者又ハ其他ノ者ノ爲メ一年以上ノ時間其占有ノ權ヲ奪

ハレタル時ハ自然ノ除棄ナリトス

第二百四十四條 期滿得免ノ權ヲ得ントスル者其占有スル財産ニ付キ裁判所ニ呼出ヲ受ケ又

ハ義務ヲ行フ可キ要決ノ書ヲ受ケ又ハ義務ノ價トシテ其財産ヲ差押ヘラレタル時ハ法律上ノ除

棄ナリトス

第二百四十五條 占有者勸解ノ爲メ治安裁判所ニ呼出ヲ受ケ其後法律上ニ定メタル期限内ニ

初告裁判所ニ呼出ヲ受ケタル時ハ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ其勸解ノ

爲メ呼出ノ日ヨリ除棄ス可シ

第二百四十六條 占有者裁判所ニ呼出ヲ受ケタル時ハ縱令其所轄ニ非サル裁判所ニ呼出サレ

タルト雖モ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス可シ

第二百四十七條 裁判所ヘノ呼出狀法式ニ背キタルニ因リ其効ナキ時

原告人自カテ其訴ヲ止メタル時

原告人其訴訟ヲ永キ時間^{訴訟法第三百九十七條}其儘ニ捨テ置キタル時

裁判所ニテ其訴ヲ取上ケタル時

此等ノ時ニ於テハ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス可カラズ

第二百四十八條 義務ヲ行フ可キ者又ハ財産ノ占有者其義務ヲ得可キ者又ハ所有者ノ權ヲ認

メタルニ因リ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス可シ

第二百四十九條 前數條ニ循ヒ連帶シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人訴訟ヲ受ケタル時又ハ其

一人義務ヲ得可キ者ノ權ヲ認メタル時ハ他ノ義務ヲ行フ可キ者又ハ其遺物相續人ノ期滿得免ノ

權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス可シ^{第六百六條見合}

遺帶シテ義務ヲ行フ可キ者ノ遺物相續人中ノ一人訴訟ヲ受ケタル時又ハ其一人義務ヲ得可キ者

ノ權ヲ認メタル時ハ縱令其義務ニ付キ不動産ヲ書入質ト爲シタル時ト雖モ他ノ遺物相續人ノ期

滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス可カラズ但シ其義務ノ分ツ可カラサル

モノタル時ハ格別ナリトス

其遺物相續人中ノ一人訴訟ヲ受ケ又ハ義務ヲ得可キ者ノ權ヲ認メタル時ハ其一人ノ負フタル義

務ノ部分ノミニ付キ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス可シ

其相續人ノ全員ニ付キ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄セントスルコトハ

第二百五十條 義務ヲ得可キ者義務ヲ行フ可キ本人ニ對シテ訴訟ヲ爲シタル時又ハ其本人義

務ヲ得可キ者ノ權ヲ認メタル時ハ其保證人ノ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間

ヲ除棄ス可シ

○第二款 期滿時免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ一時停止スル理由

第二百五十一條 期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ハ別段法律上ニ定メタル所ノ外何レノ人

ニ對スト雖モ之ヲ停止スルコトナカル可シ

第二百五十二條 幼若及ヒ治産ノ禁ヲ受ケン者ニ對シテハ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過

ヲ停止ス可シ但シ第二百五十八條ニ記スル所及ヒ其他法律上ニ別段定メタル所ハ格別ナリ

トス

第二百五十三條 又夫婦ノ間ニ於テハ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可シ

第二百五十四條 婚姻シタル婦ニ對シテハ其婦婚姻ノ契約書ニ因リ又ハ裁判言渡ニ因リ其夫

ト財産ヲ分ナタルト否トヲ問ハス夫ノ支配スル財産ニ付キ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ

停止ス可カラズ但シ此場合ニ於テハ婦ヨリ其夫 對シ償ヲ得ント訴フルノ權アリ

第二百五十五條 然レ第五百六十一條ニ循ヒ嫁資分括ノ法ヲ以テ支配スル婦ノ財産賣拂

付テハ夫婦結縁ノ時間其婦ニ對シテ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可シ

第一千二百五十六條 又左ノ場合ニ於テハ夫婦結縁ノ時間其婦ニ對シテ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可シ

第一 婦其財 共通ヲ解除シタル後其財產ヲ受クルヲ肯スルコト又ハ肯セサルコトヲ決シタル上ニ非サレハ自カラ訴訟ヲ爲スヲ得サト場合

第二 夫其婦ノ承諾ナクシテ婦ニ屬スル財產ヲ賣拂ヒ其賣拂フタル財產コト付テノ保證ヲ爲シタル場合第六百二十六條以下見合其他婦ヨリ其夫ニ對シテ訴訟ヲ爲スニ至ル可キ場合

第一千二百五十七條 又左ノ諸件ニ付テハ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可シ

第一 未必ノ條件ニ付テハ其未必ノ條件ノ現ニ生スル時ニ至ル迄第一千八百一十一條以下見合

第二 賣拂フタル物件ノ保證ニ管シテ爲ス可キ訴訟ニ付テハ其買主他人ヨリ其物件ヲ奪ハル時ニ至ル迄第六百二十六條以下見合

第一千二百五十八條 遺物財產ノ價高ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサルノ特權アル相續人ニ對シテハ其相續人其遺物財產中ヨリ得可キ義務ニ付キ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可シ

遺物相續人ノ虧缺シタル遺物財產ニ對シテハ其管財人ヲ任シタルト否トチ問ハス期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可カラズ

第一千二百五十九條 遺物相續人目録ヲ記スル爲メノ三月ノ期限並ニ熟思ヲ爲スダメノ四十日ノ期限ノ間ト雖モ他人ノ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可カラズ

○第五章 期滿得免ノ權ヲ得ルニ必要ナル期限

○第一款 總規則

第一千二百六十條 期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ハ日ヲ以テ算ス可ク時ヲ以テ算ス可カラズ

第一千二百六十一條 期限ノ最終ノ日ノ終リシ時ニ至リ期滿得免ノ權ヲ得可シ

第一千二百六十二條 人權及ヒ物權ニ付テノ訴訟ハ三十年ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限トス

但シ其期滿得免ノ權ヲ得ントスル者ハ管テ其物件ヲ得タル證書ヲ出スニ及ハス又其期滿得免ノ權ヲ得ルヲ妨ケントスル者ハ其期滿得免ノ權ヲ得ントスル者ノ管テ不正ニ其物件ヲ所得ト爲シタルコトヲ述フルヲ得ス

第一千二百六十三條 年金ノ證書ノ日附ヨリ二十八年ノ後ニ至リ之ヲ受取ル可キ者又ハ其代權人更ニ其新ナル證書ヲ得ント要ムル時ハ之ヲ拂フ可キ者自費ニテ其新ナル證書ヲ渡サ、ルヲ得ス

第一千二百六十四條 此卷ニ記スル所ヨリ更ニ他ノ條件ニ付テノ期滿得免ノ權ノ規則ハ各其條件ニ管スル卷ニ之ヲ記ス

○第三款 十年ト二十年トノ期滿得免ノ權

第一千二百六十五條 詐僞ナク正シキ證書ニ因リ不動産ヲ占有シタル者ハ其所有者不動産所在ノ地ノ控訴院ノ管轄内ニ住スル時ハ十年ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得又其所有者其管轄外ニ住スル時ハ二十年ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得可シ

第一千二百六十六條 前條ニ記シタル不動産ノ所有者全上ノ控訴院ノ管轄内ト管轄外トニ住シタル時ハ其管轄内ニ居住スル時間ノ十年ニ足ラサル年數ニ其管轄外ニ居住スル年數ノ中其不足ノ年數ヲ二倍シタル數ヲ加ヘテ其占有者期滿得免ノ權ヲ得可シ

第一千二百六十七條 法式ニ背キタルニ因リ効ナキ證書ハ十年ト二十年トノ期滿得免ノ權ヲ得可キ證據ト爲ス可カラズ

第一千二百六十八條 期滿得免ノ權ヲ得ル者ハ通常正シキ名義ヲ以テ之ヲ得タリト思料ス可シ故ニ其名義不正ナリト述フル者ハ別段其證ヲ立ツ可シ

第一千二百六十九條 期滿得免ノ權ヲ得ルニハ財產ヲ占有スル者之ヲ得タル時正シキ名義アルコトヲ以テ足レリトス

第一千二百七十條 建築者及ヒ請負人ハ十年ノ後ニ至リ其管テ建造シ又ハ指令シタル建造物ヲ保證スルノ義務ヲ免カシ得ルコト第七百九十九條以下見合

○第四款 別段ノ期滿得免ノ權

五八三

第二百七十一條

學藝ノ授業師其毎月授ケタル業ノ謝金ヲ得ルコト付キ爲ス可キ訴訟
旅舎及ヒ飲食店ノ主人其旅賃及ヒ飲食料ヲ得ルコト付キ爲ス可キ訴訟
工丁、雇夫其給料、雇料ノ償ヲ得ルコト付キ爲ス可キ訴訟
此等ノ訴訟ニ付テハ六月ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限トス

第二百七十二條

内科外科ノ醫師及ヒ製藥者其訪問、診察、藥品コト付キ償ヲ得可キ訴訟
使吏證書類ヲ送達シ及ヒ裁判所ノ言渡ヲ執行フタルコト付キ其謝金ヲ得可キ訴訟
商人ヨリ商人ニ非サル者ニ賣拂フタル商品ノ代金ヲ得可キ訴訟
義塾ノ授業師其子弟ノ飲食料ノ代金ヲ得可キ訴訟及ヒ其他ノ授業師期限ヲ定メ業ヲ授ケタ
ル子弟ノ飲食料ヲ得可キ訴訟
一年ヲ期トシテ雇フタル僕婢其給料ヲ得可キノ訴訟

第二百七十三條

此等ノ訴訟ニ付テハ一年ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限トス
原告被告雙方ノ者和解ヲ爲シタル日又ハ其代書師ヲ易ヘタル日ヨリ二年ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ
得可キ期限トス○又其訴訟ノ未タ終ラサル時ハ其代書師ノ費用ト謝金トヲ得可キ訴訟ニ付キ期滿
得免ノ權ヲ得可キ期限トス

第二百七十四條

前數條ノ場合ニ於テ絶ヘス飲食料ヲ給シ商品ヲ賣リ使用ヲ受ケ造營工作ヲ
爲シタルト雖モ期滿得免ノ權ヲ得ントスル者之ヲ得ルニ付テハ妨トナルコトナカル可シ
然レ義務ヲ認ムル算計書又ハ義務ヲ行フ可キ私ノ證書或ハ公正ノ證書アル時又ハ訴訟ヲ受ケタ
ル時ハ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ除棄ス可シ
第二百七十五條 此一款ニ記スル期滿得免ノ權ニ罹リタル者ハ其期滿得免ノ權ヲ得ントスル
者現ニ代金、雇料、謝金ノ償ヲ爲シタルヤ否ヲ知ルコト爲ノ其者ニ對シテ請求ムルコトヲ得可シ

文期滿得免ノ權ニ罹リタル者ハ其權ヲ得ントスル者ノ寡婦及ヒ遺物相續人又其相續人ノ幼年ナ
ル時ハ其後見人ヲシテ既ニ代金、雇料、謝金ヲ拂フタリト思ヘル旨ヲ述ヘシムル爲メ此等ノ者ニ
對シテ請求ムルコトヲ得可シ

第二百七十六條

裁判役及ヒ代書師ハ訴訟ノ裁判言渡ヨリ五年ノ後ニ至リ其管守スル證書類
ヲ出ス可キノ義務ヲ免カル可シ
又使吏ハ裁判所ノ言渡書ヲ執行ヒ又ハ預カリタル證書類ヲ送達シタル時ヨリ二年ノ後ニ至リ此
等ノ書類ヲ出ス可キノ義務ヲ免カル可シ

第二百七十七條

無期ノ年金及ヒ畢生間ノ年金
養料トシテ定期毎ニ拂フ可キ金高
家屋及ヒ土地ノ賃賃
貸金ノ息銀及ヒ其他總テ一年毎ニ拂ヒ又ハ更ニ短キ期限毎ニ拂フ可キ高

第二百七十八條

此等ノ諸件ニ付テハ五年ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限トス
第一款ノ數條ニ記シタル期滿得免ノ權ニ付テハ幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケシ
者ニ對スルト雖モ其期限ノ經過ヲ停止スルコトナカル可シ但シ此等ノ者ハ其後見人ニ對シテ訴訟
爲スコトヲ得可シ

第二百七十九條

動産コト付テハ現ニ有スルヲ以テ其所有ノ權ノ證書ヲ有スルコト等シキ効
アリト看做ス可シ
然レ動産ヲ見失ヒ又ハ之ヲ盜取セラレシ者ハ之ヲ有スル者ニ對シ其日ヨリ三年ノ時間其取戻ヲ
請求ムルコトヲ得可シ但シ之ヲ有スル者ハ之ヲ已ニ渡シタル者ニ對シ其償ヲ得可キ訴訟ヲ爲スコトヲ得
可シ

第二百八十條

贖物又ハ失物ヲ現ニ有スル者市場又ハ雜賣ニテ之ヲ買ヒ又ハ其品物ト同種類
ノ物ヲ賣ル商人ヨリ之ヲ買フタル時ハ其元來ノ所有者現在之ヲ有スル者ニ其買入レ代金ヲ償ハ

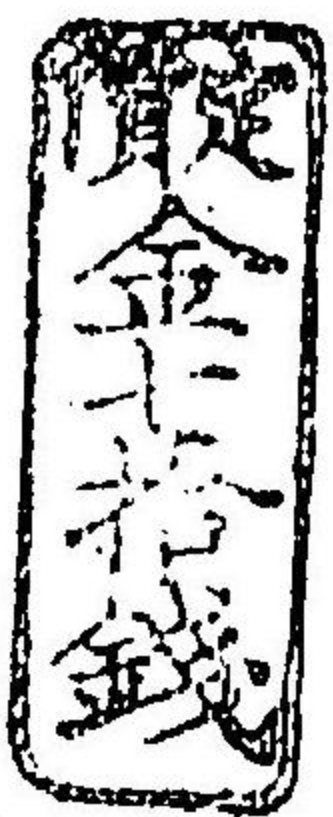
スツタ已レニ取戻スヲ得ス
第二千二百八十一條 此卷ヲ布告スル時既ニ始マリシ期滿得免ハ以前ノ法律ニ循フ可シ
又此布告ノ時既ニ始マリシ期滿得免ト雖モ以前ノ法律ニテ其權ヲ得ル爲メ猶更ニ三十年以上ノ
時間ヲ經ルヲ要スルモノハ此布告ヨリ後三十年ノ期限ヲ以テ此權ヲ得可キモノトス

社 王 華 社

法 律 西 民 法 卷

明治二十年五月二十三日 翻刻御届
全 年六月 出 版

(佛國法律書上ノ卷)



翻刻出版人

大阪府平民

吉 岡 平 助

東區備後町四丁目三十七番地

031108-001-4

CF2-3-02

仏蘭西法律書

翻訳局/訳

上

M20

BBC-0809

